

戸田市議会議員 3期目

酒井いくろう

無所属

埼玉県戸田市議会
戸田の会



【略歴】 ■東京大学医学部卒・大学院修了(医療政策) ■マッキンゼー勤務(経営コンサルタント) ■(株)ポピンス勤務(保育、幼児・学童教育) ■医学教育事業
■2009年より、戸田市議会議員(3期目)、会派「戸田の会」代表 【家族】妻、子3人(娘8才・6才、息子4才) ※初選挙より選挙カーを使わず政策本位で活動中

コロナ対策、災害対策の財源確保 市民負担の削減と、行政サービス向上の両立を!

戸田市の財政を
取り巻く環境は
悪化しつつあります

- 「ミツカン、JX、クラリオン、田辺三菱製薬」次々、市外に流出する大手企業
- 「かつて年間50億、いま5億円」激減する競艇収入
- 「高齢化スピードは全国10位」福祉予算の急拡大
- 「今後30年にわたり、毎年100億円」ハコモノ維持・管理費用

戸田市の財政を取り巻く環境が悪化しつつある中で、今回のコロナ対策には市財政からの迅速かつ積極的な支出がなされ、今後更なる支出も予想されます。

災害対策は、市の手持ち現金が頼りです。お金がなければ、守れる命も守れない、中小企業の事業支援を行うこともできません。救えるものも救えなくなっています。さらに、災害対策への備えはもちろん、医療や教育、高齢化対応などの財源も確保したい。それには、財政面における長期的かつ抜本的な見直しが必要です。

特に、公共施設の維持・管理コストは、年間100億円、30年で3000億円を見込んだ、削減余地の大きな計画となっています。新市長になった菅原氏は、計画見直しによるコスト削減を試みっていますが、今回とりあげるスポーツセンターや水害対策では、大きな改善の余地があると考えます。

公共施設(維持・運営)の市民負担を抑え、行政サービスは向上する。そのためには新しい手法を真剣に検討していく必要があります。

国では、ダムの事前放流(タテワリを排しコストをかけずに国民の利益を確保)や、イージス・アショア撤回など、シンボルとなる事例がでてきています。国よりも小回りのさく戸田市でできないことは決してありません。

「コストと質の両立」という、**当たり前**の努力を**当たり前**に実行する戸田市を、**さらに目指してまいります。**

所属会派「戸田の会」のチラシ(20年7月)。今年からは年初からコロナ対策一色。次々に出てくる前代未聞の問題への、前代未聞の対応を要望する日々が続きます。現在は秋の感染拡大に備えた対策が急務。



効率化・ムダ一扫

重要課題へ投資!!

不合理なハコモノ計画

スポーツセンターの修繕計画 撤回へご協力を

戸田市では現在、不合理なハコモノ計画が進んでいます。2016年に立案された、老朽化したスポーツセンターの修繕計画です。現状の計画のまま、古い建物を修繕して使い続けられれば、80億円。しかし、建て替えを行えば55億円の試算です。つまり、現状の計画は「25億円多く払って、使いづらい古い建物を15年間、使い続ける」ことになります。

計画立案当時から状況は大きく変わりつつあります。試算と比較し、合計26億円ものコスト増となることが判明した現在、計画の見直しは当然のことではないでしょうか?

昨年度は、市保有の特別養護老人ホームの、新築よりも高額な30億円もの修繕計画撤回に成功しました。

くわしくは裏面をご覧ください

皆様のご賛同が
市長の決断を後押しします。
ご協力をお願いします。

↓↓↓市長に直接届く「市長への提言」、ご利用は戸田市ホームページから↓↓↓

戸田市 市長への提言 検索

計画ごとのコスト(15年間)

現状の修繕計画は25億円の市民負担増!

	現状の修繕計画	建替え案
建設コスト	試算8億円 現状15億円	7億円アップ! 67億円
修繕コスト	試算16億円 現状35億円	19億円アップ! 67億円
運営コスト	30億円	27億円
資産価値	0	△39億円
市民負担(15年間)	80億円	55億円

修繕が新築よりも25億円高い

建替え案の利点

- ① コストが安い ▶ 15年で25億円
- ② 使い勝手が良い ▶ 時代に合った施設を利用できる
- ③ 駐車場やグラウンドが拡大 ▶ 土地利用効率が改善するため
- ④ 工事中も利用可能 ▶ 旧施設をそのまま利用しながら、敷地内に新施設を建設するため(現状の計画では、修繕工事中、1年以上の閉鎖)
- ⑤ 巨額の補助金 ▶ 国から数十億円程度が期待できる
- ⑥ サービスが改善 ▶ 民間のノウハウを生かした設計、運営

現状の修繕計画の利点

特に見当たらない

「ポートコースの水害対策」・「市の特別養護老人ホームの修繕計画撤回に成功」は裏面で!

効率化・ムダ一掃

重要課題へ投資!!

ボートコース水害再発防止はこれしかない!

19年10月、大きな被害をもたらしたボートコース水害。再発防止へ向け、20年6月に議会質問した、ボートコース水害対策の決定版「台風上陸前の事前放流」が、翌7月、早くも実現に向けて動き出しました。

再発を防ぐには、国で実施しているダムの事前放流のように、台風上陸前にボートコース内の水を荒川へ放流し、水位を下げるのが考えられます。今回、県・市の協議により、**ボートコースの水門を開閉し、水位を調整する運用が拡大される見通しとなりました。**今後さらに、ボートコースにつながる三領水門ポンプを利用し、菖蒲川、ボートコースの水位をさらに下げる運用がなされれば、**2つ合わせて最大約80万㎡(25mプール**

2000杯分)という途方もない容積の水を貯留できる計算になります。戸田市内全域に菖蒲川、ボートコースへの排水管等の整備を行っていくことで、戸田市はもう冠水に悩むこともなくなるかもしれません。

また、**本計画はコストパフォーマンスが極めて高い**のも特徴です。現在、市役所南通りに設置を計画している直径6mの地下埋設管1kmの貯水量は2.5万㎡で、総工費は80億円。単純比較なら、菖蒲川、ボートコースの治水機能には2500億円の価値がある計算になります。

ボートコース、菖蒲川は、**もともと遊水池をかねて設計された水路であるため、実現性は大変高いと思われます。**引き続き、提言実現に向けて働きかけていきます。

実現しました!

快挙!

ムダなハコモノ計画を撤回 市特養「戸田ほほえみの郷」の修繕計画

不合理なスポーツセンターの修繕計画が進行する一方で【表面参照】、それとは別の**不合理な公共施設の修繕計画が1つ、撤回されました。**酒井の活動報告チラシ2020年第1号(1月)で紹介した案件になります。



特殊な構造の建物



▲市特養「戸田ほほえみの郷」。特殊な構造の建物。業務効率や安全性に課題がある。

酒井が1年間、提言を続けてきた市保有の特別養護老人ホーム「戸田ほほえみの郷」の修繕計画コストは、試算時約15億円、その後の計画では最低約30億円と倍増。これは、新築コスト(約20億円)を上回る金額です。さらに、現状の「戸田ほほえみの郷」の建物は、外見を重視した特殊な構造であるため、機能性、安全性に大きな課題がありますが、**多額のコストをかけて修繕を行っても、介護環境は改善されません。**

そこで酒井は、修繕計画に反対し、建て替えや延命修繕(短期の延命を目的とした、最低限の修繕)の選択肢を検討することを提言。昨年9月の議会質問を皮切りに、毎議会ごと4回にわたる議会質問を行うなど、この1年間活動してきました。事態はその後、紆余曲折を

経て、検討期間の延長、検討委員会の設置と進み、今議会の質問では**「抜本的な見直し」、「選択肢の出直し」が明言されました。**

まだまだ気は抜けませんが、**私の知る限り戸田市において1度決まったハコモノ計画を撤回した例はありません。**菅原市長の決断は、数十億円の市民負担を抑え、行政サービスは向上する快挙と言えます。

ご存知の通り、行政で1度決まった計画を修正するのは大変困難。しかし、**皆様のご協力があればそれも可能です。**スポーツセンターの見直し【表面参照】についても、**ご意見をお寄せください。市長に直接、届けます。**

酒井の提言

ボートコース水害の再発防止 → 市内全域の水害をゼロへ

- ① 笹目川増水時、無制限に流入する越流堤を即時撤去し、水門による流入調整に切り替え
- ② 国県と調整し、三領水門ポンプによる事前放流をガイドライン化
- ③ ボートコース周囲の堤防を整備し、遊水池機能を万全なものに
- ④ 水害情報を確実に伝える方法を整備(情報発信のマニュアル化、放送設備の増強等)
- ⑤ 事前放流のテストを兼ねて、ボートコースのかいぼり(水抜き清掃)を行う

戸田ボートコースと周辺の水路

ボートコース越流堤

笹目川の水位が上がると自動的に流入が始まる。台風19号(19年10月)では大量に流入した水がボートコースから溢れた。



ボートコース

もともと笹目川の遊水池を兼ねて作られた。貯水量は54万㎡(25mプール1350杯分)と巨大。



菖蒲川

大きな川幅の運河は、遊水池機能を兼ねて人工的に作られた。大雨時には笹目川以東の雨水を一手に貯留する。



三領水門

菖蒲川から荒川への排水路。極めて強力な排水ポンプを持つ(1秒間に35㎡=1時間あたり25mプール240杯分)。



本提言について

本チラシの「台風上陸前の事前放流」は、台風19号の被害を受け、市内在住の2名の専門家から直接頂いた提言が発端。数値的な裏付けやポンプ、水門の機械設備、潮位や降雨量等の自然環境、歴史的ないきざつ等、アドバイスを受けて作成した政策提言です。また、次の記事にある市特養「戸田ほほえみの郷」

の修繕計画についても、市内の実務家の方から頂いた情報がきっかけとなり、30億円という大きな支出にストップをかけることができました。戸田市の危機的な状況や大きな問題について、市民の皆様から有力な情報・提言を頂けることは大変心強く、市民の皆様の声を第一にしてきた12年間の活動の成果と思います。

戸田市の公共施設の問題点

- 外見重視の建物(戸田ほほえみの郷、スポーツセンター以外にも、あいばる、こどもの国、福祉保健センター他多数)。維持コスト、管理コスト(光熱費、人件費等)が高く、使いやすさの評価は低い
- 修繕は、数十億円のコストと1年前後の閉鎖が必要である一方、建物の機能は古いまま
- 新築、修繕とも、面積を基準に試算した標準コストよりも大きく膨らむ傾向。必要以上の設備や外見重視のデザインが原因か

改善に向けて

- 今後はデザインよりも機能性や維持・管理しやすさを重視した、**シンプルな設計を基本とすべきでは?**
- 民間からの提案の活用や、工事発注時期・入札方法の調整、施設効率の検証等、**コストパフォーマンスの上がる手法を検討しては?**
- 建設コストだけでなく、運用コストも含めた**長期コストによる比較を行い、合理的な選択を**

戸田市議会議員 酒井いくろう

質の高い議員活動のためには、**皆様からのご意見が必要です。**
どのようなことでもぜひご一報下さい。



【TEL/FAX】 048-432-9168

【Eメール】 ikuro.sakai@gmail.com

sakai-ikuro.com

www.facebook.com/sakaiikuro